

心も支え合って

寺田 ひかるさん (稲枝東小学校6年)

六年生の私にとって、九月に行われた百二十周年記念運動会は、小学校生活最後の運動会でした。この運動会で一番心に残ったのは、やはり、組体操です。

組体操の学習から、大切なことを学ぶことができたのです。

一人技、二人技、五人技、四段の塔、どれもみんなで協力しないと完成しない技です。その中でも一番難しい技は、四段の塔です。

例年、三段の塔を行ってきたのですが、私達は形がちがう四段の塔に挑戦することにしました。私の役割は、四段の塔の二段目でした。

一回目の練習の時、私達六年二組女子の四段の塔は見事一回で完成しました。なので、私達はとても喜び、そして自信もつきました。

しかし、次の練習の時です。私達の塔が、全く上がらなくなったのです。私達は、なぜ、上手くいかないのだろう。

この前は上がったのに…。と不安が大きくなってきました。

そして、そんな不安をみんながかかえながら、次の練習の日を迎えました。一段目、二段目と次々に上がっていきます。そして、三段目、最後に四段目の人が上がりました。そして、三段目の人が立ち上がろうとした時、四段目の人が「キヤー、こわい！やめて！」と言いました。三段目の人は立ち上がるのをと中でやめました。

そして、練習の時間が終わった後、みんなが「四段目の人があんなこと言うから私らまでやる気なくすよな。」と口々に言いました。私も『そうだ、そうだ。』と心の中でうなずきました。でも、こんな話をいくらしても、何の解決にもなりません。やはり、次の練習の時も、その次も、全く塔は完成しませんでした。

そんな練習の時、「ごめん。でも私も、怖くて立ち上がれへんねん。」と四段目の人がみんなに謝ってきてくれました。そのことをきっかけに、『私達、ひどいこと言ってしまったな。四段目の人は、一人でがんばって立ち上がろう

としてんの、四段目の人の気持ちも考えんと…。』とみんなで反省しました。

そして、いよいよ運動会当日。私は、ドキドキしていました。段々と組体操をする時が近づいてきます。そして、「次は、五・六年生の団体演技、組体操です。」とアナウンスが流れました。いよいよです。

まず、一番初めの波は、きれいにできました。そして、次の二人技、五人技もきれいに完成しました。そして、いよいよ四段の塔です。

私は、小さな声でみんなちようして四段目の人に、「私達もがんばって支えるから、みんなでがんばって完成させよな。」と声をかけました。すると、「うん。」と力強くうなずいてくれ、何だか力がわいてきました。

まず、一段目。そして二段目。三段目。四段目。そして、三段目の人が立ち上がりました。そして、四段目の人が立ち上がりました！私は、このしゅん間、みんなの心が一つになったんだ、と強く感じました。もう、うれしくてうれしくてたまりませんでした。今まで、失敗ばかりしていた原因は、

「幸せ」な社会を願って

岡本 麻弥さん (彦根中学校3年)

私には、アトピーという皮膚の病気があります。生まれつきのアトピーで小さい時から病院に通っていました。

小学校の時、友だちが何人か出来、楽しい毎日を送っていました。だけどやはり皆と違うためか「一緒にいるとうつるぞ。」とか、からかわれたりすることがよくありました。でもそんなことより一番つらかったのは友達からの「絶対治す気ないやろ。そんなんやから治らないんや。」という一言でした。

私はその時、私だつて治すためにいろんなことをしているのに何で分からないの…という気持ちでいっぱいでした。でも今思つと、言わないことを分かつてもらうのは無理な話だったなあと思います。

そして、私は嫌なことを言われたり、からかわれたりしたせいか、友達さえ、本当は一緒にいるの嫌なのでは？と疑ってしまいました。そんな思いが小学校の間は続きました。

中学生になると、新しい友達も出来ました。でも、どこか心の中に不安がありました。ある日、その友達としゃべっていると、腕ずもうをしようということになりました。腕ずもうは「手」を繋(つな)がなければなりません。私は泣いていたら、当たり前のように手を繋いできました。私はその時、すごく驚いて同時にすごく嬉しかったです。そして友達は、「気持ち悪くなんかないよ。堂々としていればいいんだよ。」という言葉をくれました。私は涙が出そうでした。

世の中には、私よりつらい思いをしている人達がたくさんいます。その

つらさは人それぞれで、自分にとってはずごく大変でつらいはずですが、だから私の友達のような温かい心の持ち主が多くなってほしいと思います。

そのためには、皆が偏見など持たず、誰でも普通に接していくことが大切だと思います。アトピーも少しずつ良くなり、私も今では前向きに生きています。しかし、私は、なりたくて病気になったわけではありません。そのことを分かっていると思います。

私も今後困っている人を見かけたら、「何か私にできることはありませんか？」と自分から声をかけていきたいと思っています。

たくさんの人達の「幸せ」が、世界中に広がっていくことを願っています。

選評

集団が心一つにすることの難しさ、心一つに合わせたときの力の大きさや気持ちよさを、組体操の学習を通して学ぶことができた。これからの人生で自分や仲間が困難にぶつかりくじけそうになったとき、この体験を思い出し、他人に責任を押し付けるのではなく、心を合わせて支え合い目標に向かってあきらめずに進んでいく姿を期待しています。

選評

人は、ふとしたきっかけから「幸せ」、「不幸せ」の生じることがあります。あなた自身がついておられるように、今回おとしたきっかけから生まれた友情ではありますが、自分や他人の幸せを願うなら、その幸せを願う気持ちを人に伝える勇氣も必要でしょうね。周りには温かい心の持ち主も多くおられます。そこから希望が見えてくるのではないのでしょうか。

標語・一般の部

現状を
変える勇氣と
実行力!!

岸本 文彦さん

標語・一般の部

ひこにやんで
広がる
人の輪
心の和

野淵 令子さん

ポスター・中学生の部



武藤 陽穂さん
(東中学校2年生)